

まちのニュース

町内の話題をお届けします

ほかほかご飯でおにぎり作り

増穂保育所



▲楽しくおにぎりを作る園児

増穂保育所の園児たちが、自分たちで育てたお米で、10月13日、おにぎり作りに挑戦しました。

増穂保育所では、春にバケツに苗を植えて、水の管理などをしながら、丹精こめて育ててきました。

実りの秋を迎え、たわわに稲が実を付けたと、園児たちは収穫や脱穀、精米を体験。お米が食べられるようになるまでを、体験しながら学びま



▲もみすりをする園児

した。いよいよおにぎり作りの日を迎え、ほかほかの炊き上がったご飯が配られると、園児たちから「おいしそう」と歓声が上がりました。においをかいだり、お米の粒の形を観察したりした後、おにぎり作りを開始。手に水をつけ、ご飯を丁寧にぎっていきまし

た。それぞれ特徴のある形にぎった、たくさんのおにぎりを前に、「みんなが食べる、おいしいご飯になるまでには、作業がいろいろあって、時間がかかります。いつも一粒も残さず食べましょう」と、栄養士が呼び掛けると、「はい」と園児たちは元気な返事で答えていました。

この日のお昼は、いつもよりたくさんのご飯をうれしそうに食べる、園児の姿が多く見られました。

かまを手に稲刈りに挑戦

瑞穂小学校



▶指導を受けながら稲を刈る児童

瑞穂小学校の5年生110人が、5月に田植えをした神房の田んぼで9月26日、稲刈りに挑戦しました。

児童はそれぞれ、かまを手に田んぼに入り、作業開始。「けがをしないように少し上向きで刈るといいよ」などと瑞穂環境保全会や山武農業事務所職員の指導を受けながら、たわわに実った稲を刈り取っていきました。

瑞穂環境保全会の岩瀬真一会長は「お米に限らず、食べ物を作るのに農家の人は苦労している。粗末にしないで大切に食べてほしい」と呼び掛けました。

収穫した米は、精米し実習で炊いて食べるほか、それぞれの家庭にも配られました。

スーパーのお仕事を見学

大網東小学校



▲商品の並べ方について説明を受ける児童

大網東小学校の3年生が、9月20日に町内のスーパーを訪れ、店内の様子や仕入れの仕組みを学びました。スーパーを訪れた児童に、まず、店長から仕事の内容や、商品について説明がありました。人気商品や仕事のやりがいなどの話に、児童はうなずきながら、熱心に聞いていました。

また、児童からは「品物の値段はどうやって決めるの」「品物はどこから来るの」などの質問が。店長が分かりやすく解説すると、真剣にメモをとっていました。

その後、児童は2班に分かれて店内を見学。バックヤードでエコへの取り組みを見たり、店内で商品の並べ方の工夫や、働いている人の仕事を観察したりするなど、細かなところまで、じっくり見学していました。

体育指導で世界に貢献

村松加奈子さん



んは、中学生のとき韓国へのホームステイをきっかけに海外に興味を持ち、「海外で役に立てれば」との思いから、青年海外協力隊に応募しました。

現地では今後2年間、子どもたちへの体育の指導や、授業のカリキュラム作成にあたります。

「少し不安もあるが、すごく楽しみ。早く行きたいとずっと思っていた」と意欲を見せる村松さんを、金坂町長は「若いうちに、色々なことを吸収するのはいいこと。健康第一で、気を付けて行ってください」と激励しました。

世界に誇る日本の伝統技術

子ども村「上総掘り体験」

電力を使わない掘削技術として、現在もアフリカ・東南アジアなどの井戸掘りに応用されている、日本の伝統技術「上総掘り」。国の重要無形民俗文化財にも指定されているこの技術を、子どもたちに知ってもらおうと、9月24日、大網白里子ども村(清名幸谷)で、体験会が行われました。

上総掘りの装置は「大網白里子育て支援ネットワーク協議会」が、助成を受けて昨年、製作したもの。今年1月に、最初の体験会を実施しています。今回の体験会では途中、穴を掘るホリテッカンをつるす竹ヒゴが折れたり、バネの役割をするハネギが折れたりというアクシデントがありましたが、「自然のものだし、壊れるのは当たり前」と手早く修理し、再開。参加者は、竹ヒゴを巻き上げるヒゴ車に乗ったり、ホリテッカンを持ち上げたりと、千葉県生まれの技術に感心しながら、体験を楽しんでいました。

※「上総掘り」を体験してみたい方は、大網白里まちづくりサポートセンター(☎72-8278)に体験できる日時を問い合わせください

